

俳句通信

特別作品25句 ● 永方裕子「木斛の花」

特集 ● ことばの熟成を味わう

「綾部仁喜論」 藤本美和子
 秋ちかき心の寄や
 「友岡子郷論」 今井 聖
 即物・抒情・モダニズム
 「下鉢清子論」 大島英昭
 今生は動画一巻

【特別寄稿 30 句】

三田きえ子「初野分」
 吉岡桂六 「五島行」
 木内怜子 「風の橋」

実力作家3人競詠

佐久間慧子「虚子と愛子」
 佐藤麻績「中国茶」
 佐藤ゆき子「北回歸線」



● 好評エッセイ ●

視野遠近「大景小景(4)」廣瀬直人
 伝統の探求

「近代題詠文学理論(花鳥詠)」筑紫誓井
 戦後の俳人たち「原 裕」松岡ひでたか
 虚子の肖像「坊城家と虚子」坊城俊樹
 飯田龍太は森である「家住期前期」清水青風

作品 ● 小宅容義・木附沢麦青・茨木和生・辻桃子・
 波戸岡旭・大岳水一路・河野頼人・平沢陽子・
 大高霧海・長山あや・小林篤子・源鬼彦・
 針ヶ谷隆一・藤田直子・日原傳ほか

季節の中で

自邸にて・川崎市多摩区





書齋にて

大竹多可志

木斛の花

永方裕子

老鶯や遠き田ひかり始めたる
忘れられるたる昼月甘野老
小満や藪の下葉に日の溜むる
音たてて泥切り進む代掻機
鳥の声山へ移りて夏霞
亡き人の言葉心耳に青葉かな



特集

ことばの熟成を味わう

—綾部仁喜・友岡子郷・下鉢清子作品について—

練り込んだことばの味、といったらいいか、その俳句作品にはいうにいわれぬ熟成した趣があり、同時に生氣のあるひかりを感じることがある——そうした作品を静かに送り出してくる作家がいます。今回はそうした熟年作家の3人を、3人の俳人に読みとき、味わっていただきました。